

黒岩鋼の推理

2023年2月20日。13時50分。東京都世田谷区成城。
阿望家の兄弟姉妹は刑事たちに取り囲まれ、黒岩と対峙していた。

堇青 「——以上の推理から、私達全員の潔白が証明されるわ」

4人の説明を聞くうちに、刑事たちの間にざわめきが広がっていった。黒岩の表情も、挑発的なものから真剣なものに変わっている。

話を聞き終え、黒岩はゆっくりと口を開いた。

黒岩 「戯言は俺の方だったな。公務執行妨害で来てもらうだったか？ あの発言は取り消す。悪かったな。あんたらの証明は完璧だ」

黒岩 「ということは——むしろ、弁解するのは俺の方か。まず一つ目、そこまで推理したってことは当然俺のことを疑っているよな？ 犯人はシャンドリアの異音を聞けて、飛ばしのスマホをホール内に置ける人物。要するに事件当時にメインホールにいた奴だ。そして、その中でシロだと証明されてないのは俺だけ」

でも残念ながら、俺は犯人じゃない——黒岩は懷から紙束を取り出す。

黒岩 「こいつはセキュリティゲートの通過者リストだ。事件当日——2月13日の記録を見てくれ。実はこの日、運の良いことに俺は一度もメインホールを出ていないんだ。堇青と同じようにな。つまり、堇青の潔白を証明したのと同じ理屈で、俺の潔白も証明される」

▽推理カード「黒岩鋼の推理」公開。

黒岩 「しかし、まったく驚いたぜ。あんたらがここまで完璧に俺と同じ推理をしていたとはな。だが——それじゃあ一步足りない」

周囲の刑事たちのざわめきは静まっている。あれは予想外のものを聞いた動揺ではなく、以前黒岩が説明したのと全く同じ内容を聞いた動揺だったのだ。

日長 「思わせぶりに言うじゃねえか？ じゃあ何が足りねえんだよ」

黒岩 「怪盗ホープだよ。俺は初めから確信していたが、あの予告状は本物だった」

黒岩 「おまえらの推理に欠けているのは怪盗ホープだ。あの怪盗は確かに事件当時には誰にも化けていなかったが、事件以前についてはその限りじゃない」

日長 「は？ それが何の関係が……」

黒岩 「事件の3日前——2月10日の14時」

翡翠 「……それって」

黒岩 「翡翠、あんたが監視カメラに映ってた時間だ。いや、違うな。映ってたのはあんたじゃなく、あんたに変装した怪盗ホープだったんじゃないのか？」

そんな馬鹿な、と呟いたのは誰だったか。構わず黒岩は続ける。

黒岩 「だとすれば翡翠についての推理は一から崩れる。ダイヤが熱に弱いことを知らなかったのは翡翠、あんたじゃなくて怪盗ホープだったってことになる。あるいは、単に安物のダイヤなんか奴にとってはどうでも良かっただけかもしれんがな」

翡翠 「あ、あり得ない……！」

黒岩 「あり得るんだよ。事件の3日前、あんたは眠らされるか何かされて怪盗に1日成り代わられた。普通ならすぐにでも警察に言うよな？ でも、あんたはそうできなかった。阿望剛を殺そうとしていたからだ。今警察が介入するとなると、計画がご破算になるかもしれない。だからあんたは黙っていた」

どこも馬鹿げていない、と黒岩は^{すご}凄む。

黒岩 「ここまで言えば、賢いあんたらならわかるよな。消去法だ。俺でも董青でも日長でも月長でもないなら、犯人は翡翠。お前しかあり得ない」

突然のことに翡翠はうまく言い返せない。他の3人も同様だった。どう見ても馬鹿げた推理なのだが、それに反論する証拠がどこにも見当たらないのだ。

黒岩は目の鋭さを緩めると、くると後ろを向く。そして、ひらひらと手を振りながら刑事の輪の中に戻っていった。

黒岩 「3分だけ待ってやる。翡翠に自白するよう説得してくれ。裁判まであんたらとやり合うのは骨が折れるからな」

▽証拠カード「入室記録」が更新された。

▽クリックして詳細を確認し、黒岩の推理について検討（3分間議論）する。